

平成 23 年 4 月 28 日

各 位

東日本大震災による当社グループへの影響について

アサヒビール(株)広報部IR室

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

震災による当社グループへの影響につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 主な生産設備の被災、復旧状況について

	住所	被災状況	復旧状況
アサヒビール 福島工場	福島県 本宮市	建物・設備の一部に損傷	最盛期の操業再開に向け、復旧作業中 (ユーティリティは復旧済み)
アサヒビール 茨城工場 (一部飲料製造)	茨城県 守谷市	建物・設備の一部に損傷 物流倉庫の一部に損傷	ビール類:3/22 より一部製造再開 飲料:3/19 より一部製造再開 低アルコール飲料:4/11 より製造ライン一部復旧 物流倉庫:5月から通常の供給体制となる見込み
アサヒビール 神奈川工場	神奈川県 南足柄市	損傷なし 計画停電対象地域	計画停電終了に伴い4/18より仕込み再開
アサヒ飲料 富士山工場	静岡県 富士宮市	損傷なし 計画停電対象地域	計画停電終了に伴い、通常の生産体制にて製造中

その他、ニッカウヰスキー(仙台、栃木、柏工場)、アサヒフードアンドヘルスケア(茨城、栃木工場)、和光堂(栃木工場)、エルピー(蓮田工場)などにおいても、建物や設備の一部に損傷がございましたが、既に操業を再開しております。

2. 現在の商品供給について

現時点では、ビール類につきましては、『アサヒスーパードライ』、『クリアアサヒ』を中心に製造ブランドを集約化するとともに、一部の商品を休売するなど全国的な計画出荷を実施しておりますが、福島、茨城工場の出荷数量の減少をその他の7工場における増産で対応しております。

また、飲料につきましても、水やお茶類を優先して製造ブランドの集約化を図っておりますが、食品事業も含め、一部の原料・資材の調達に支障をきたしていることから、休売や出荷を調整している商品がございます。

3. 今後の商品供給の見通しについて

ビール類につきましては、福島工場以外の工場の増産により、最盛期の需要に対応していく方針です。資材の調達見通しや一定の節電対応を考慮しても、最盛期の8月まで前年並みの生産数量は確保できる見込みです。

飲料につきましては、一部の原料・資材の調達に支障をきたしていることもあり、品種によっては当初予算の生産数量の確保は難しい可能性がございますが、早期に供給体制の回復に努めていきます。

4. 今後の需要見通しについて

ビール類につきましては、3月単月の業界全体の課税数量が10%程度減少致しましたが、現時点では回復傾向にあります。震災による消費の一定の減退は想定されるものの、現時点では大幅な需要の減少にはならないものと見込んでおります。

飲料につきましても、3月単月の業界全体の販売数量が3%程度減少したものと推定しておりますが、水やお茶類を中心に震災の特需もあり回復してきております。昨年の猛暑の反動による販売数量の減少はあり得るものの、震災や自動販売機の節電対応などにより、今後の需要が大幅に減少するとは見込んでおりません。

5. 業績への影響

震災による当社連結業績への影響については、第1四半期決算では、3月単月の売上のマイナス影響や震災に伴う特別損失69億円を計上しております。尚、特別損失につきましては、第1四半期決算では期末時点で見積もり可能な範囲の費用のみを計上しており、第2四半期においても、製造、物流設備の復旧費用や操業休止期間中の製造固定費などで、第1四半期と同程度の損失が発生する可能性がございます。

年間業績への影響につきましては、今後の需要動向を見極めたうえで、第2四半期決算の段階で売上目標などを見直す予定ですが、現時点では当初の利益目標の達成を目指して取り組みを進めていく方針です。

< 第1四半期決算の特別損失の内訳 >

(単位:億円)

	合計	アサヒ ビール社	アサヒ 飲料社	その他
固定資産・リース資産の滅失・復旧費用	6	1	5	1
棚卸資産の毀損	18	9	8	1
操業休止期間中の製造固定費	10	8	-	2
広告キャンセル費 (AC差替広告料)	27	16	7	4
その他()	8	7	1	0
合計	69	41	20	8

その他は、増高物流費、営業関連費、義援金、支援物資費等です。

以上